

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18320061

研究課題名（和文） ツングース系危機言語のテキスト・コーパス作成

研究課題名（英文） Research for constructing a corpus of the Tungusic endangered languages

研究代表者

津曲 敏郎（TSUMAGARI Toshiro）

北海道大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号 80113588

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：その他の語学、危機言語

1. 研究計画の概要

本研究は、消滅の危機に瀕したツングース系諸言語について、実地調査による資料収集を行い、とりわけテキスト・データの刊行とコーパス化の推進をはかるものである。具体的には、次の3点を目的とした活動を行う。

- (1) 実地調査による資料収集と解析
- (2) テキスト・データの整理・分析とコーパス化、および刊行・公開
- (3) 成果の現地還元と現地語教育への寄与

2. 研究の進捗状況

(1) 海外実地調査の実施：各年度において代表者・分担者がそれぞれ複数回の海外実地調査を行い、新たな資料収集と既存データの確認・解析作業を実施した。必要に応じて連携研究者（大学院生）を派遣した。また話者を招へいしての資料収集と分析も行った。

(2) 資料のテキスト化と刊行：得られた音声資料や筆記資料等をもとにテキスト化（デジタル・データ化）の作業を進め、一部には音声CDも付して冊子体で刊行した。対象となった言語はウイльта語、ウデヘ語、ナーナイ語、ウルチャ語、エウエン語（以上ロシア）、およびソロン語、満洲語（以上中国）と、ツングース諸語のほぼ全体をカバーしている。これにより、ツングース系諸言語としては（文字資料を有する満洲語を除き）他に例を見ない大規模コーパスの構築に向けて着実な前進が得られた。すでに代表者・分担者自身がこのコーパスを活用した研究を行っているほか、他の研究者による利用も始まっている。

(3) シンポジウム・学会および学会誌等での

成果発表：これらのコーパスを活用した研究、および関連して得られた成果について、口頭や誌上での発表を行った。また海外研究者を招へいして、本研究関連テーマのシンポジウムを開催し、多くの国内研究者および一般聴衆の参加を得ることができた。

(4) 成果の現地還元：刊行物の多くは現地でも利用可能なように、ロシア語または中国語の訳を併記し、現地の関係者や教育機関等に配布した。こうした活動をとおして、現地との連携を深め、現地語教育への寄与をはかった。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

（理由）

代表者・分担者ともすでに本研究以前からこの分野での調査・研究の蓄積があり、それを本研究にそのまま継承することができた。その結果、本研究の経費によるものだけでも、すでに8冊のテキスト集を刊行している。これらはすべて電子データのかたちで保有されており、そのままコーパスとして利用可能である。これらをはじめ、関連発表論文、学会発表、シンポジウム開催、現地との連携等の活動においても、当初の計画を上回る成果を達成しているものと認識している。

4. 今後の研究の推進方策

テキスト化されたデータをコーパスとして利用しやすいかたちに整備し、共有・公開をはかることが今後の課題である。そのために代表者と分担者の間で必要なフォーマットの統一などを協議し、ウェブ上のアーカイブ等のかたちで公開をめざす予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計20件)

- ①津曲敏郎 “A sketch of Solon grammar” 『北方人文研究』(北海道大学) 2: 1-21, 2009年、査読有
- ②風間伸次郎 「ツングース諸語の受身」 『語学研究所論集』(東京外国語大学) 14: 65-80, 2009年、査読有
- ③山田祥子 「ウイльта語口頭文芸の伝聞形式: サハリンにおける言語接触の可能性」 『北海道民族学』 4: 63-71, 2008年、査読有
- ④津曲敏郎、呉人恵、遠藤史 “Siberia: Tungusic and Palaeosiberian” The Vanishing Languages of the Pacific Rim (O. Miyaoka et al. eds. Oxford University Press) 387-405, 2007年、査読有
- ⑤風間伸次郎 「ナーナイ語とウデヘ語の付属語について」 『アジアとアフリカの言語と言語学』(東京外国語大学) 2: 49-83, 2007年、査読有

[学会発表] (計5件)

- ①山田祥子 「方言差をどう「書く」か: ウイльта語文字教本の表記と今後の記述研究」 日本言語学会第137回大会 (ポスター発表)、2008年11月30日、金沢大学
- ②風間伸次郎 「ツングース祖語における接近音について」 日本言語学会第137回大会、2008年11月29日、金沢大学
- ③山田祥子 「ウイльта語民話資料における伝聞形式と証拠性」 日本言語学会第136回大会、2008年6月21日、学習院大学
- ④風間伸次郎 「極東にいろいろいるぜツングース諸語」 日本言語学会第133回大会 (シンポジウム講演)、2006年11月18日、札幌学院大学
- ⑤津曲敏郎 「無文字言語のゆくえ: 北方少数民族言語はどう生き残れるか」 第18回社会言語科学学会大会 (招待講演)、2006年8月26日、北星学園大学

[図書] (計8件)

- ①風間伸次郎 採録・訳注 『エウエン語テキスト2』 北海道大学大学院文学研究科、2009年、420頁
- ②風間伸次郎 採録・訳注 『ナーナイの民話と伝説 11』 北海道大学大学院文学研究科、2008年、169頁
- ③津曲敏郎 編 (池上二良著/E. A. ビビコワ訳) 『ウイльта口頭文芸原文集 (ロシア語逐語訳版)』 北海道大学大学院文学研究科、2007年、114頁

④津曲敏郎 編 (A. カンチュガ著) 『ウデヘ語自伝テキスト5: 狩猟物語 (ウデヘ語・ロシア語版)』 北海道大学大学院文学研究科、2007年、184頁

⑤風間伸次郎 採録・訳注 『ウデヘ語テキスト3』 北海道大学大学院文学研究科、2007年、269頁

[その他]

(1) 新聞記事

- ① 「サハリン先住民族 ニブヒ語日ロ研究を: 専門家来道 音声資料解説に期待」 『北海道新聞』 2008年9月4日
- ② 「北大院生・山田さん ウイльта語の方言調査: サハリン北部で初の本格記録」 『北海道新聞』 2008年9月22日

(2) 機関リポジトリへの論文掲載 (津曲敏郎 2件)

①<http://hdl.handle.net/2115/37062>

②<http://hdl.handle.net/2115/38236>